

## 2013 年度 研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	国際言語文化研究所
研究所・センター長名	高橋秀寿

### I. 研究成果の概要（公開項目）

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2013 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお、2013 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、別紙「研究所重点プロジェクト実績報告書様式」(非公開)に記述のうえ提出してください。

2013 年度の国際言語文化研究所(以下、「言文研」と略す)では、①連続講座、②紀要発行、③研究所重点研究プログラム、④萌芽的および継続研究プロジェクト、⑤出版助成、⑥図書収集の 6 点を基軸として、2015 年度末までの「総合計画」に沿った活動を行い、下記の通りの成果を挙げた。

①**連続講座**は 2013 年 10 月の毎週金曜日 17 時 30 分から末川記念会館第三会議室で「バイリンガルをほりさげる」をテーマに公開研究ワークショップを開催した。グローバル化の状況のなかでの言語と文化のあり方を問うこのテーマに関して、多言語主義や日系文学、国際結婚家庭、翻訳の問題が扱われ、毎回、一般の方々を含む多数の参加者を集め、活発な議論がくり広げられた。これらの記録に基づいた成果は、報告者およびコメンテーターらが執筆する論文として、2014 年度第 26 巻 2 号『立命館国際言語文化研究』(10 月末発行予定)に掲載される。

②**研究所紀要**『立命館言語文化研究』に関しては、年内に予定どおり第 25 巻の第 1 号から第 4 号を、テーマごとの特集論文(研究所の企画やさまざまなプロジェクトの成果報告など)と投稿論文(査読付き)からなる研究ジャーナルとして発行した。

#### ③ 研究所重点研究プログラム

- 1) 環カリブ地域における言語横断的な文化／文学の研究
- 2) バイリンガルの言語脳イメージング研究
- 3) カタストロフィと正義
- 4) メディアと日系人の生活研究会
- 5) トラベル・ライティング研究会
- 6) デジタル時代のヴァナキュラー文化：ヴォイスの諸相
- 7) 新自由主義のなかの貧困とジェンダー

各プロジェクトとも研究所の総合計画と調和することを意識的に追求しながら、それぞれの年度目標を十分に達成し、言文研の今後の活動基盤となりうる実績を上げた。とくに、2) の「バイリンガルの言語脳イメージング研究」は、過年度より継続している fNIRS 脳実験のデータ取得と分析を進める傍ら、研究所の連続講座での講演にてそれまでの研究成果を発信し、5) の「トラベル・ライティング研究会」は 2013 年 11 月に、世界的にも著名な作家、Ilma Rakusa 氏、多和田葉子氏を招いての研究所企画、朗読と対話の集い「海へ—言葉と境界を越えて—」を企画・開催した。また 6) の「デジタル時代のヴァナキュラー文化」は、国際シンポジウム「日本とアメリカ、歌の架け橋 スティーブン・フォスター歌曲の受容と展開」をコンサートも含めて開催し、国内外の研究者による学术交流の機会を設け、一般の参加者も多く得たことから、社会に対して研究成果を積極的に発信したといえる。3) の「カタストロフィと正義」も、国際カンファレンス「社会正義とカタストロフィ：リスク・責任・互性」を 2 日間にわたって開催、海外からの研究者や学内外の院生を含めた多彩なメンバー・招聘者をはじめ、参加者もまじえて活発な議論がなされた。どのプロジェクトも若手の育成にも積極的で、若手研究者に研究発表や企画の運営など、活躍の場を与えた。したがって、今年度以降への継続によって研究はさらに深化していき、立命館の人文・社会科学の高度化に着実に貢献できるものであると総括できる。

④**萌芽的および継続研究プロジェクト**は、8 つの研究課題によって構成された。いずれもがプロジェクトの目的を十分かつ適正に達成するものとなった。とくに専門研究員や院生など、若手研究者が萌芽プロジェクトに積極的にかかわったことは評価できる。また、「21 世紀の風景論研究会」では 10 月に国際カンファレンス「風景のアヴァンギャルド——風景のポストモダン」を開催し、2 人の海外からの招聘者（イースト・アングリア大学とエラスムス大学）を含む 7 人の報告者によって活発な議論が展開された。これらの活動を通して、言文研を研究の場とするプロジェクトの、活発な展開を社会的に明確に示すことができたといえる。

⑤**出版助成**については、仲間裕子／ハンス・ディッケル編著『自然の知覚——風景の構築。グローバル・パースペクティブ』(三元社)に対して 100 万円の助成を行い、2014 年 3 月に刊行。日英 2 言語にて成果を発信し、高い評価を受けている。

⑥**図書収集**に関しては、従来の蓄積(移民・比較文学・カリブ地域関係)に加えて、研究所重点研究プログラムにもとづく新たなニーズにしたがって収集が進みつつある。

## II. 研究業績（公開項目）

本欄には、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2014年3月31日時点）

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	中村隆之	カリブ - 世界論	単著	2013年8月	人文書院		PP. 1-438
2	大辻都	渡りの文学	単著	2013年12月	法政大学出版局		PP. 1-464
3	井上彰	岩波講座 政治哲学5	共著	2014年1月	岩波書店	齋藤純一（編）	PP. 151-172
4	西成彦	胸さわぎの鷗外	単著	2013年12月	人文書院		PP. 1-225
5	後藤玲子	世界の社会福祉年鑑 2013 年度版	共著	2013年11月	旬報社	宇佐見耕一・小谷眞男・原島博	PP. 1-491
6	木下昭	「日本語教育のトランスナショナル化：ダバオ日系社会の変遷と植民地主義」	共著	2013年12月	『帝国以後の人の移動：ポストコロニアリズムとグローバル化の交差点』	蘭信三	867-906
7	ウェルズ恵子	魂をゆさぶる歌に出会う：アメリカ黒人文化のルーツへ	単著	2013年2月	岩波書店		
8	丸山里美	『婦人保護施設と売春・貧困・DV 問題 ——女性支援の変遷と新たな展開』	共著	2013年7月	明石書店	宮本節子・須藤八千代	PP.253～286
9	岡野八代	『グローバル・ジャスティス——新たな正義論への招待』	共著	2013年5月	ミネルヴァ書房	内藤正典	PP.1～15、203～226
10	岡野八代	『森美術館問題と性暴力表現』	共著	2013年8月	不磨書房	ポルノ被害と性暴力を考える会	PP.30～39
11	松本克美	『清水誠先生追悼論集・日本社会と市民法学』	共著	2013年8月	日本評論社	広渡清吾・浅倉むつ子・今村与一	PP.513～527
12	姫岡とし子	『EU（欧州連合）を知るための64章』	共著	2013年9月	明石書店	羽場久美子	
13	山下英愛	『私たちの韓流—韓国ドラマを読み解く』	単著	2013年5月	岩波書店		
14	二宮周平	『女性白書 2013』	共著	2013年	ほるぷ出版	日本婦人団体連合会編	PP.10～14
15	仲間裕子	ローマ外国人芸術家の都	単著	2013年10月	竹林舎	佐藤直樹、加藤哲弘、三浦篤他 15名	
16	仲間裕子、ハンス・ディッケル編	自然の知覚。風景のパーセプション (Perception of Nature. Construction of Landscape. Global Perspectives) 日英バイリンガル	単著	2014年3月	三元社	要真理子他 11名	
17	雨宮幸明	DVD『プロキノ作品集』	共著	2013年9月	六花出版	映像制作：日本プロレタリア映画同盟 監修：牧野守 解説：牧野守、阿部マーク・ノーネス、雨宮幸明 字幕翻訳：阿部マーク・ノーネス、孫イレ	
18	久保忠行	移民と難民	単著	2013年	『ミャンマーを知るための60章』明石書店	田村克己・松田正彦（編）	PP.269-270
19	永田貴聖	在日フィリピン人と国際結婚	単著	2013年11月	『人の移動事典—日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版	吉原和男・蘭信三・伊豫谷登士翁・関根政美・塩原良和・山下晋司・吉原直樹（編）	PP.242-243
20	久保忠行	第三国定住難民と私たちとの接点はどこにあるのか：第三国定住者をめぐる包摂	単著	2014年2月	『包摂／排除の人類学：難民・開発・福祉』昭和堂	内藤直樹・山北輝裕（編著）	PP.157-174

		と排除					
--	--	-----	--	--	--	--	--

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	崎山政毅	商品語の〈場〉は人間語の世界とどのように異なっているか (1)	共著	2013年7月	立命館大学人文学会、立命館文学 632号	井上康	PP.90-108;	無
2	崎山政毅	商品語の〈場〉は人間語の世界とどのように異なっているか (2)	共著	2013年11月	立命館大学人文学会、立命館文学 633号	井上康	PP.97-135;	無
3	西成彦	小説の一言語使用問題——中西伊之助から金石範まで——	単著	2014年1月	立命館大学国際言語文化研究所、立命館言語文化研究、第25巻2号		PP.107-126	無
4	西成彦	アメリカ大陸は東欧ユダヤ人と先住民が出合う場所～『密林の語り部』試論～	単著	2013年4月	東京大学現代文芸論研究室、れにくさ、4		PP.132-150	無
5	大野藍梨	M. コンデの『移り住む心たち』における「乳白化願望」とハイブリッド	単著	2014年3月	立命館大学先端総合学術研究科、コア・エシックス、10号		PP.37-48	有
6	久野量一	亡命地としてのアルゼンチン——アントニオ・ホセ・ボンテとカリブ文学研究をめぐって	単著	2013年4月	東京大学現代文芸論研究室、れにくさ、4号		PP.92-106	無
7	中村隆之	叙事詩世界から混成世界へ 転成する東松照明	単著	2013年5月	青土社、現代思想、41巻6号		PP.52-161	無
8	中村隆之	グリッサンの〈全-世界〉(1) 開かれた船の旅	単著	2013年5月	岩波書店、思想、1069号		PP.7-28	無
9	中村隆之	グリッサンの〈全-世界〉(2) 〈一〉に抗する複数の土地	単著	2014年3月	岩波書店、思想、1079号		PP.89-111	無
10	寺尾智史	社会学者小松堅太郎(1894-1959年)と“民族”-“民族”概念肥大化の潮流の中で	単著	2013年12月	京都精華大学、京都精華大学紀要、第43号		PP.2-25	有
11	山辺弦	流亡の座標——現代キューバ文学に見る亡命と性	単著	2013年4月	東京大学現代文芸論研究室、れにくさ、4号		PP.255-269	無
12	佐久間寛	祖先・奴隷・腹：ニジェール共和国ソンガイ系社会における親族のモラル	単著	2013年12月	弘文堂、社会人類学年報、第39巻		PP.29-50	有
13	TAURA, Hideyuki	Developmental Stages in the First Three Years of English Acquisition in a Japanese EFL junior high school student: an fNIRS case study	単著	2014年3月	立命館大学「言語科学研究」4	無し	PP.13-36	有
14	田浦秀幸	機能的近赤外光法(fNIRS)の原理とバ	単著	2013年12月	立命館大学「言語科学研究 Working Papers」3.	無し	PP. 13-34	有

		イリソガル第1言語保持に関する4年間の縦断実験研究						
15	平田裕	日本語初級学習者の筆記テスト時と会話時の脳活動:fNIRSによる継続的研究	単著	2014年3月	立命館大学「言語科学研究」4	無し	PP:37-63	有
16	平田裕	fNIRSによる筆記テスト時と会話時の脳活動の検証:脳賦活量に着目して	単著	2013年10月	日本語教育学会秋季大会研究発表予稿集	無し	PP:145-150	有
17	田浦秀幸	バイリンガル第一言語発達疑似縦断研究:言語学的・脳イメージング技法を用いて	共著	2013年12月	立命館大学「言語科学研究 Working Papers」3.	清水つかさ・張旋	PP: 59-68	有
18	Paul Dumouchel	Risk, Justice and Catastrophe	単著	2013年	Ritsumeikan Studies in Language and Culture, 24(4)		PP 1-6	無
19	Paul Dumouchel	La morale ouverte et l'idée de catastrophe morale	単著	2013年	Annales bergsoniennes, VI		PP99-112	無
20	Paul Dumouchel	New Economic Thinking and Philosophy	単著	2013年	Journal of Northeast Asia Development, 15		PP75-88	無
21	井上彰	Is Moderate Essentialism Truly Moderate?	単著	2013年4月	Public Health Ethics, 6(1)		PP21-27	有
22	後藤玲子	福祉は正義とどうかかわるか?	単著	2013年5月	福祉社会学ハンドブック	福祉社会学会編	PP18-21	無
23	河原典史	「琵琶湖における「漁業環境」を考える—湖国と古都の関わりから—」	単著	2013年4月	『地域漁業研究』53巻3号	地域漁業学会	PP: 15-29	有
24	佐藤量	「戦後中国における日本人の引揚げと遣送」	単著	2013年10月	『立命館言語文化研究』25巻1号	立命館大学言語文化研究所	PP: 155-171	無
25	小林善帆	「近代女子教育における茶の湯—植民地朝鮮の女学校・高等女学校の事例をふまえて」	単著	2013年4月	『一女性研究者による一茶文化研究論文集』	茶文化研究発表会実行委員会	PP: 18-31	無
26	松盛美紀子	「女子教育とソロシティ—ガンマ・ファイ・ベータ国際本部」	単著	2014年1月	『北米の小さな博物館3』	北米エスニシティ研究会	PP: 140-151	無
27	ウェルズ恵子	Folk Tales を読む:物語の力	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』第25巻3号		PP: 23-40	無
28	佐藤 渉	The Transformative Self in Tom Cho's <i>Look Who Is Morphing</i>	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』第25巻3号		PP: 57-64	無
29	佐藤 渉	A Reflection on Ethnic Literature: Nam Le's "Love and Honour and Pity and Pride and Compassion and Sacrifice"	単著	2014年1月	立命館大学人文学会『立命館文学』第634号		PP: 202-7	無
30	海寶康臣	主語名詞句が左方転位化されている日英語の左方転位構文	単著	2013年	日本語用論学会『日本語用論学会第15回大会発表論文』第8号		PP: 41-48	無

31	海寶康臣	主語名詞句が転位化されている日英語の左方転位構文と右方転位構文の談話内での機能	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』第25巻3号	PP.41-56	無
32	海寶康臣	場所を表す表現+知覚動詞+知覚の対象という形式を有する構文について—機能的な観点からの考察—	単著	2014年1月	立命館大学人文学会『立命館文学』第634号	PP.167-176	無
33	湊圭史	Langston HughesのASK YOUR MAMAに見るヴァナキュラー文化のゆくえ	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』第25巻3号	PP.93-108	無
34	古谷やす子	Moses, Man of the Mountain における人間の自由	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』第25巻3号	PP.79-92	無
35	西山淳子	英語の完了形の継続用法と時の副詞句	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』第25巻3号	PP.65-78	無
36	中川成美	「SF的想像力と文学—笠野頼子の冒険」	単著	2013年12月	立命館大学日本文学会、『論究日本文学』99号、	PP.1-14	有
37	中川成美	「林芙美子の詩的精神—抒情の発見」	単著	2014年3月	思潮社『現代詩手帖』2014年4月号	PP.78-82	無
38	松本克美	「児童期の性的虐待に起因するPTSD等の発症についての損害賠償請求権の消滅時効・除斥期間」	単著	2013年	『立命館法学』349号	PP.1~43	無
39	松本克美	「除斥期間と債務の承認・権利行使—民法724条後段の20年期間との関係で—」	単著	2014年	『立命館法学』351号	PP.3026-3035	無
40	姫岡とし子	「ドイツにおけるナショナリズムと女性の政治化」	単著	2013年12月	『メトロポリタン史学』第9号	PP.51-73	無
41	梁説	「ライフヒストリーマジックの洗礼—山本栄子著『歩—識字を求め、部落差別と闘いつづける』を読んで」	単著	2013年5月	『NOTRE CRITIQUE』第6号	PP.52-59	無
42	泉谷瞬	「包囲される／衝突する女性同性愛—松浦理英子『ナチュラル・ウーマン』における欲望と関係性—」	単著	2013年12月	『論究日本文学』99号	PP.37-52	有
43	二宮周平	「生き方の多様化を支える家族法を目指して」	単著	2013年	『香川法学』33巻1・2号		無
44	二宮周平	「「婚外子差別」と民法改正」	単著	2013年	『現代思想』41巻17号	PP.141~147	無
45	二宮周平	「最高裁大法廷相続」	単著	2014年	『自由と正義』65巻3号	PP.8~15	無

		分差別違憲決定の意義と民法改正」						
46	加藤政洋	コザの都市形成と歓楽街—1950年代における小中心地の簇生と変容	単著	2014年4月	立命館大学人文科学研究so『立命館大学人文科学研究so紀要』第104号		PP. 41~70	有
47	櫻澤誠	1960年代前半の沖縄における政治勢力の再検討—西銘那覇市政の歴史的位罫—	単著	2014年3月	立命館大学人文科学研究so『立命館大学人文科学研究so紀要』第104号		PP.71~103	有
48	Yuko Nakama	Romantic Landscapes and Sublime	単著	2013年	<i>Journal of Zhengzhou University</i> , vol. 42, Nr. 2, translated by Liu Qingquan		PP.94-97	無
49	Yuko Nakama、Hans Dickel	The Multiple Artwork	共著	2013年	<i>The Challenge of the Object, Congress Proceedings, Part 3</i> , Verlag des Germanischen Nationalmuseums, Nuernberg	G.Urlich Grossmann, Petra Krutish 他91名	PP.928-930	無
50	Mariko Kaname	Remarks on “Emptiness” or “Intervals” in Painting: Modernism and Orientalism	共著	2013年	<i>The Challenge of the Object, Congress Proceedings, Part 4</i> , Verlag des Germanischen Nationalmuseums, Nuernberg	G.Urlich Grossmann, Petra Krutish 他89名	PP.1287-1290	有
51	丸山果織	戦後日本における前衛書の展開—森田子龍の作品分析をとおして	単著	2013年10月	『書学書道史研究』第23号(書学書道史学会)		PP.63-71	有
52	南川文里	鉄条網のなかの「コミュニティ」—アメリカ合衆国の戦時強制収容は日系人社会をどう変えたのか?—	単著	2013年10月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』25巻1号		PP.91-103	無
53	小川真和子	太平洋戦争中のハワイにおける日系人強制収容—消された過去を追って—	単著	2013年10月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』25巻1号		PP.105-118	無
54	佐藤 量	戦後中国における日本人の引揚げと遣送	単著	2013年10月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』25巻1号		PP.155-171	無
55	中川成美	「生きることの自責—原爆文学を考える—」	単著	2014年1月	立命館大学『言語文化』25巻2号		pp. 39 - 42	無
56	和田崇	『貴司山治日記』における中野重治	単著	2013年12月	中野重治の会『梨の花通信』62号		pp.10-15	有
57	浅野敏彦	見聞記『航米日録』に見える「行頭」をめぐって—幕末武士の近代語—	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』25巻3号		PP. 109~117	無
58	陶 萍	『航米日録』における施設語彙をめぐって—語構成の観点からみる三字漢語—	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』25巻3号		PP.119~135	無
59	湯浅彩央	『航米日録』に見る玉虫の表現意識—外国地名表現からの一考察—	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』25巻3号		PP.137~151	無
60	石井久雄	航米日録の漢字、その定量的概要	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』25巻3号		PP.153~173	無
61	彦坂佳宣	『航米日録』と『広八日記』の比較考察	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』25巻3号		PP.175~194	無

62	入江さやか	明治期における外国地威名表記—新島襄の草稿を資料として—	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』、25巻3号		PP.195~205	無
63	丸山健一郎	橋爪松園『英字類』翻刻と日本語索引	単著	2014年2月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』、25巻3号		PP. 209~220	無
64	久保忠行	難民受け入れと多文化共生—第三国定住カレン難民をめぐる—	単著	2013年	『難民 研究ジャーナル』第3号		PP.44-58	有
65	松谷実のり	个人的跨国流动与迁移地选择的关系：以在南京的日本人为例	単著	2014年	『京都大学アジア研究ユニット報告書3 2013年度京都大学南京大学社会学人類学若手ワークショップ報告論文集』		PP.119-124	無
66	久保忠行	タイのカヤン観光の成立と変遷 —観光人類学の枠組みを再考する—	単著	2014年	『東南アジア研究』51巻2号、		PP.267-296	有
67	久保忠行	支援のフィールドにおける人類学—カレンニー難民の移動と定住	単著	2014年	『国立民族学博物館研究報告』38(3)		PP.337-375	有
68	崎山政毅	「商品語の(場)は人源語の世界とどのように異なっているか(3)」	共著	2014年2月	立命館大学文学部人文学会『立命館文学』635号	井上康	PP13~44	無
69	西林孝浩	「初唐末期における大画面変相図の新展開—敦煌莫高窟第二一七窟壁画を中心に—」	単著	2014年2月	立命館大学文学部人文学会『立命館文学』635号		PP.23~45	無
70	唐澤靖彦	「工役長 陸軍工兵中尉時尾善三郎」	単著	2014年2月	立命館大学文学部人文学会『立命館文学』635号		PP.1~22	無
71	須藤直人	「「高貴な未開人」の比較文学—太平洋のポストコロニアル表象におけるパラオの王子リー・ブー—」	単著	2014年2月	立命館大学文学部人文学会『立命館文学』635号		PP.114-127	無
72	中村忠男	「コナン・ドイルの「失われた民族誌」とアンダマン表象」	単著	2014年2月	立命館大学文学部人文学会『立命館文学』635号		PP.154-175	無
73	宮本直美	「レビューの mortality と immortality — ジャナルとしてのレビューと宝塚歌劇団 —」	単著	2014年2月	立命館大学文学部人文学会『立命館文学』635号		PP.60-75.	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	西成彦	在日文学と小説の一言語使用～「砧をうつ女」を読む～	2013年6月	日本比較文学会第76回全国大会、名古屋大学	
2	杉浦清文	カリブ海地域における「借り物の文化」史—Jamaica Kincaid の <i>A Small Place</i> (1988)を読む	2013年10月	日本英文学会中部支部、椋山女学園大学	
3	TAURA, Hideyuki	Language attrition through the two lenses of conventional and brain-imaging analyses	2013年6月	9 <sup>th</sup> International Symposium on Bilingualism at Singapore	単独発表

4	田浦秀幸	バイリンガル第1言語の保持と喪失：3年間縦断言語データと脳イメージングデータの総合考察	2013年10月	第1言語としてのバイリンガリズム研究会(BiL1)2013年度秋期大会. 関西学院大学梅田サテライト	単独発表
5	田浦秀幸	バイリンガル脳を覗く：帰国生と国際結婚家庭の子ども達を対象に	2013年10月	立命館大学国際言語文化研究所主催連続講座「バイリンガリズムをほりさげる」立命館大学	単独発表
6	TAURA, Hideyuki	Language Attrition: Conventional and Brain-Imaging analyses	2013年8月	University of British Columbia 夏期集中 LLED489C クラスでの招待特別講義 カナダ・バンクーバー	単独発表
7	TAURA, Hideyuki	Bilingual First Language Development from Linguistic and Neuro-Imaging Perspectives	2013年7月	4th International neuroELT Conference in Nagoya	清水つかさ・張旋
8	平田裕	NIRS による筆記テスト時と会話時の脳活動の検証：脳賦活量に着目して	2013年10月	日本語教育学会秋季大会	単独発表
9	Paul Dumouchel	Reciprocity: Nuclear Risk and Responsibility	2014年3月	10th International Conference "Justice and Catastrophe: Risk, Responsibility and Reciprocity," Ritsumeikan University	
10	井上彰	Taming Luck Egalitarianism Successfully?	2013年8月	Justice, Taxation, and Social Philosophy Conference, Salzburg University	
11	井上彰	Luck Egalitarianism and Catastrophe	2014年3月	10th International Conference "Justice and Catastrophe: Risk, Responsibility and Reciprocity," Ritsumeikan University	
12	西成彦	脱植民地化の文学と言語戦争	2013年5月	日本台湾学会(基調報告)、広島大学	
13	西成彦	Literatura japonesa extraterritorial – Pensando a base da literatura em língua japonesa do Brasil	2014年2月	日本文化センター(講演)、サンパウロ大学	
14	後藤玲子	Risk as a Viewpoint and Public Reciprocity	2014年3月	10th International Conference "Justice and Catastrophe: Risk, Responsibility and Reciprocity," Ritsumeikan University	
15	後藤玲子	潜在能力アプローチの定式化の方法に関する注意書き	2014年3月	「地域社会がつくる公共交通計画のための計画策定と社会的選択」研究会、神戸大学	
16	佐藤量	「1950年代中国の近代化と対日協力者：日本人学校出身中国人による生存戦略」	2013年10月27日	日本現代中国学会第63回全国学術大会	なし
17	武田悠希	押川春浪『空中大飛行艇』における土地の描写—ヴェルヌ作品及びパリ旅行記との比較—	2013年6月	日本比較文学会第75回全国大会	
18	ウェルズ恵子	マイケル・ジャクソンの歌詞を読む	2013年11月	日本比較生活文化学会第29回全国大会、立命館大学衣笠キャンパス	
19	宮下和子	映画『リンカーン』に見る個人内コミュニケーション	2013年9月	日本コミュニケーション学会九州支部第20回記念大会、長崎純心大学	
20	宮下和子	ステイーブン・フォスター 歌曲の受容と展開	2013年12月	ステイーブン・フォスター再発見、レクチャー・コンサート及び国際シンポジウム、立命館大学衣笠キャンパス	
21	佐藤 渉	アイデンティティの行方：トム・チョウとナム・リーの場合	2013年8月	ヴァナキュラー文化研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
22	古谷やす子	人間回復の力：Moses, Man of the Mountain より	2013年11月	日本比較生活文化学会第29回全国大会、立命館大学衣笠キャンパス	
23	古谷やす子	Foul and Fair in Macbeth: "Fair is foul, and foul is	2014年3月	ヴァナキュラー文化研究会、立命館大学衣笠キャンパス	



		fair の解釈			
24	二村洋輔	Malaysian Literature in English in a Global Context	2013年6月	日本「アジア英語」学会 第32回全国大会、大阪大学豊中キャンパス	
25	丸山里美	Attitude toward a Desirable Social Security System in Japan and Korea	2013年2月	International Postgraduate and Academic Conference 2013、立命館大学	
26	岡野八代	What is the Political Significance of People's Tribunal in Japan	2013年9月	RCSL Congress No. 134、トゥールーズ	
27	岡野八代	「ケアの倫理」のフェミニズムへの再定位——「ケアの倫理」か「正義の倫理」かの枠組みを疑う	2013年11月	関西倫理学会、立命館大学	
28	岡野八代	「慰安婦」問題が突きつけた、安全保障問題——「安全保障」から「平和」へ	2013年12月	ジェンダー法学会、宮崎公立大学	
29	中川成美	“The End of Women's Literary Film: Naruse Mikio's Hourouki (1962) and Imamura Shōhei's Nippon Konchūki (1963)	2014年1月	Kinema club 13th conference、ハーバード大学	
30	松本克美	「ジェンダーと平和・企画趣旨」	2013年12月	ジェンダー法学会、宮崎公立大学	
31	姫岡とし子	「ジェンダー史の成果は浸透したのか？」	2013年6月	日本学術会議シンポジウム	
32	姫岡とし子	”Frauenbewegung und Backlash: Japan und Deutschland im Vergleich“ in: Frauenbewegungen und Komplexe (Geschlechterverhältnisse in Internationaler Perspektive)	2013年2月	Festtagung für Ilse Lenz、ボーフム・ルール大学	
33	泉谷瞬	「抵抗の前／結婚の前——金原ひとみと綿矢りさにおける婚前の物語——」	2013年5月	日本近代文学会春季大会、法政大学	
34	泉谷瞬	「文学と映像における女性同性愛表象——松浦理英子『ナチュラル・ウーマン』を手がかりに——」	2014年3月	東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻(卓越資金): クィア批評・公開ワークショップ「欲望を読みかえる——文学と映画のポリティクス」、東京大学	
35	加藤政洋	戦後沖縄の基地周辺における都市開発 - コザ・ビジネスセンター構想と《八重島》をめぐる	2013年6月	洛北史学会大会 第15回大会(京都府立大学)	
36	櫻澤誠	沖縄現代史研究の課題	2013年9月	北陸史学会(金沢大学)	
37	櫻澤誠	沖縄復帰前後のけ財構想	2013年11月	同志社大学人文科学研究国際学術シンポジウム「磁場としての東アジア—日本の「戦後史」と東アジア」(同志社大学今出川キャンパス)	
38	櫻澤誠	1960年代前半の沖縄における保守勢力の再検討	2013年12月	同時代史学会大会(一橋大学)	
39	Yuko Nakama	招待講演: Modernity and Sensibility in the Japanese Art of Landscape	2013年3月1日	University of Bologna	
40	Yuko Nakama	Aesthetics and Landscape: Crystallization of landscape images	2013年7月24日	The 19th International Congress of Aesthetics, “Aesthetics in Action”, Krakow (Section Chair/ Speaker)	

41	Yuko Nakama	招待講演：The Reception History of French Modern Art in Japan and the Matsukata Collection	2013年10月5日	International Symposium: Reflections of/on art collecting, between critical assessments and new contributions, Urbino	
42	Yuko Nakama	招待講演：Living World Sculpture and its Anthropological Images	2014年3月1日	“Modeling Ju Ming”-Ju Ming International Symposium, Hong Kong Museum of Art	
43	Yuko Nakama	招待講演：The view on nature in Romanticism and Japanese aesthetics	2014年3月17日	Erasmus University, Rotterdam	
44	Shoko Sumida	Ruins and Nostalgia: A Study of the Japanese Modern Industrial Ruins' Boom in the 2000s	2013年7月23日	The 19 <sup>th</sup> International Congress of Aesthetics, “Aesthetics in Action”, Krakow	
45	中川成美	「見える風景・見えない風景—カズオ・イシグロと原爆文学—」	2013年11月	日本比較文学会関西大会、徳島大学	司会：荘中 孝之（京都外国語大学）
46	鳥木圭太	「プロレタリア文学の中の植民地主義—伊藤永之介「万宝山」を読む—」	2013年12月	生存学研究センター特別企画「帝国の盛衰と日本人の移動」、立命館大学	企画者・司会：西成彦（先端総合学術研究科教授）、コメンテーター：玉野井麻利子、発表者：石田智恵、佐藤量
47	中川成美	“Nature as a Problematic concept in Japanese Literature: Looking for Reality”	2014年3月	ベネチア大学国際シンポジウム Rethinking of Nature、招待講演	
48	浅野敏彦	『航米日録』に見える振り仮名が付された漢字列について—振り仮名が「外来語」の例—	2013年4月	第103回 国語語彙史研究会、大阪大学豊中キャンパス	
49	浅野敏彦	幕末武士の近代語—『航米日録』に見える「行頭」をめぐって—	2013年5月	第64回 中部日本・日本語研究会、刈谷市産業振興センター	
50	NAGATA, Atsumasa	The Contemporary Situation of Filipino Migrants in Japan.	2013年5月	Asia Pacific Worlds in Motion 5th conference: Migration Beyond Borders. St John's College at University of British Columbia, Canada.	なし
51	李 定恩	韓国=フィリピン間の「複線的移動」	2013年7月	第18回フィリピン研究会全国フォーラム	なし
52	Kainei MORI	Transnational perspectives on the research on Overseas Chinese Protestant Churches: The Case Study of CCCOWE Moment	2013年8月	The 8th International Conference of the International Society for the Study of Chinese Overseas Kuala Lumpur: Universiti Tunku Abdul Rahman	なし
53	Chie Ishida	La nacionalidad en debate: Una historia de la identidad colectiva en torno a la migración japonesa	2013年9月	reunión del Grupo de Estudios del Este Asiático, Instituto de Investigaciones Gino Germani, Universidad de Buenos Aires	なし
54	石田智恵	南米「棄民」の子の「戦後」—— 準二世のねじれ	2013年12月	立命館大学生存学研究センター特別企画「帝国の盛衰と日本人の移動」、立命館大学衣笠キャンパス	なし
55	Tadayuki Kubo	Ethnocentrism or National Reconciliation: Changing Ethnic Relations of Karenni in Burma (Myanmar).	2014年3月	Annual Conference of Association for Asian Studies (AAS). Philadelphia Marriott Downtown.	なし

#### 4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	ドキュメンタリー映画「古里：失われた村、ターミナル島」Furusato: The Lost Village of Terminal Island	立命館大学衣笠キャンパス 充光館 301 教室	2013年4月	52名	国際言語文化研究所、 (以下、後援) 立命館大学国際平和ミュージアム、和歌山県太地町歴史資料室、和歌山県太地町教育委員会、日本移民学会

2	2013年度国際言語文化研究所 連続講座 「バイリンガリズムをほりさげる」	立命館大学衣笠キ ャンパス末川記念 会館第3会議室	2013年10月	第1回:32 名 第2回:42 名 第3回:32 名 第4回:24 名	
3	国際ワークショップ「遊戯、メディア、ア イデンティティ」	立命館大学衣笠キ ャンパス末川記念 会館第3会議室	2013年10月	25名	共催:立命館大学ゲーム研究センター 協力:京都大学大学院文学研究科吉岡洋研究 室
4	朗読と対話の集い「海へ一言葉と境界を越 えて」	立命館大学衣笠キ ャンパス末川記念 会館第3会議室	2013年11月	31名	
5	2013年度「環カリブ文化研究会」	立命館大学衣笠キ ャンパス創思館 4F 403・404 教室	2013年3月	20名	
6	第1回 国際正義共生研究会	立命館大学衣笠キ ャンパス末川記念 会館第3会議室	2013年6月	20名	
7	10th International Conference "Justice and Catastrophe: Risk, Responsibility and Reciprocity"	立命館大学衣笠キ ャンパス創思館カ ンファレンスルー ム	2014年3月	30名	立命館大学生存学研究センター、立命館大学 大学院先端総合学術研究科
8	2014年度トラベル・ライティング研究会	立命館大学衣笠キ ャンパス末川記念 会館第3会議室	2014年3月	14名	国文学研究資料館
9	トラベル・ライティング・研究会 国際ワ ークショップ	立命館大学衣笠キ ャンパス末川記念 会館第3会議室	2014年3月	20名	
10	第1回 ヴァナキュラー文化研究会	立命館大学衣笠キ ャンパス	2013年6月	5名	
11	第2回 ヴァナキュラー文化研究会	立命館大学衣笠キ ャンパス	2013年6月	6名	
12	第3回 ヴァナキュラー文化研究会	立命館大学衣笠キ ャンパス	2013年8月	12名	
13	第4回 ヴァナキュラー文化研究会	立命館大学衣笠キ ャンパス	2013年11月	6名	
14	第5回 ヴァナキュラー文化研究会	立命館大学衣笠キ ャンパス	2014年3月	5名	
15	レクチャー・コンサート・国際シンポジウ ム「日本とアメリカ、歌の架け橋 スティ ーブン・フォスター歌曲の受容と展開」	立命館大学衣笠キ ャンパス創思館カ ンファレンスルー ム	2013年12月	85名	立命館大学大学院文学研究科 英語圏文化専 修
16	第1回ジェンダー研究会「韓国の女性ホ ームレスとその支援」	総合社会福祉研究 所	2013年5月	25名	
17	第2回ジェンダー研究会 丸山里美著 『女性ホームレスとして生きる貧困と排 除の社会学』を読む	立命館大学衣笠キ ャンパス末川記念 会館第3会議室	2013年7月	12名	
18	ジェンダー研究会共催企画「韓国におけ る強制動員被害者の日本企業に対する訴 訟の展開及び慰安婦問題の現状について」	立命館大学 朱雀 キャンパス 2F 203 教室	2013年11月	40名	立命館大学ジェンダー法研究ユニット/共催: ジェンダー法学会関西支部、ジェンダーと平 和・開発研究会、コリア研究センター/女性・ 戦争・人権学会/後援:立命館大学・法心理・司 法臨床センター
19	ジェンダー研究会共催企画「“女性人権” の井戸を掘り続けてー韓国女性ホットラ インの活動がめざすところー」	ドーンセンター	2013年1月	80名	(一財)アジア・太平洋人権情報センター、 大阪府立大学女性学研究センター、(一財)大 阪府男女共同参画推進財団
20	第3回ジェンダー研究会「ジェンダーで みる韓国ドラマの歴史」	立命館大学衣笠キ ャンパス末川記念 会館 第3会議室	2013年1月	18名	
21	第4回ジェンダー研究会「朗読劇とトー クの夕べ 朗読劇:「ガザ、希望のメッセ ージ」より」	立命館大学衣笠キ ャンパス末川記念 会館第3会議室	2013年2月	13名	
22	第一回主権と空間研究会「領土の喪失/故 郷の喪失——戦後ドイツにおける被追放	立命館大学衣笠キ ャンパス創思館	2013年7月	10名	

	者たちの政治]	412 教室			
23	第二回主権と空間研究会「帝政ロシアによる露領アメリカ経営と環太平洋における海洋秩序の変容について」	立命館大学衣笠キャンパス学而館第2 研究会室	2013 年 10 月	10 名	
24	第三回主権と空間研究会「近代日本における内国植民論の位相——北海道、ドイツ、アメリカとの思想史連関から」	立命館大学衣笠キャンパス学而館第2 研究会室	2013 年 10 月	10 名	
25	第四回主権と空間研究会「長志珠絵著書評会」	立命館大学衣笠キャンパス学而館第3 研究会室	2013 年 12 月	10 名	
26	第五回主権と空間研究会「英領インドにおける植民地的遭遇と女性たち——法・道徳・境界」	立命館大学衣笠キャンパス学而館第2 研究会室	2014 年 3 月	10 名	
27	国際カンファレンス「風景のアヴァンギャルド 風景のポストモダン」	立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム	2013 年 10 月	67 名	
28	<2013 年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究 B4>第1回アフリカの社会と笑い研究会	立命館大学衣笠キャンパス尽心館1F701 研究室	2013 年 7 月	4 名	
29	<2013 年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究 B4>第2回アフリカの社会と笑い研究会	立命館大学衣笠キャンパス諒友館821 教室	2013 年 10 月	19 名	
30	<2013 年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究 B4>第3回アフリカの社会と笑い研究会	立命館大学衣笠キャンパス諒友館821 教室	2013 年 12 月	14 名	
31	<2013 年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究 B4>第4回アフリカの社会と笑い研究会	立命館大学衣笠キャンパス諒友館821 教室	2014 年 2 月	8 名	
32	<2013 年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究 B5>第1回 東・東南アジア研究会 「フィリピン系移民の集住と組織化—シドニー大都市圏ほかを事例に—」 報告者：阿部 亮吾<愛知教育大学教育学部 講師、人文地理学> ※報告約1時間 質疑応答 約30分	立命館大学衣笠キャンパス 学而館2階第2 研究会室	2014 年 1 月 16 日 17:00~18:30	6 名	2013 年度立命館大学国際言語文化研究所 萌芽的プロジェクト研究 B5
33	<2013 年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究 B6>「争点としてのマンガ」研究会	立命館大学衣笠キャンパス	2014 年 3 月	6 名(研究分担者のみ、非公開)	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	中村隆之	「集团的衰弱」に抗して：エドゥアール・グリッサン渾身の批判の書『カリブ海序説』を読む（講演）	大阪大学・豊中キャンパス	2013 年 11 月 9 日	
2	河原典史	「カナダへ渡った美浜の人びとⅡ：銅鉱山での活躍」	みはま土曜歴史講座	2013 年 11 月 23 日	
3	河原典史	「雪崩に散った若い命：カナダ太平洋鉄道と美浜の人びと(4)」	『広報みはま』：16	2013 年 5 月号	
4	河原典史	「雪崩に散った若い命：カナダ太平洋鉄道と美浜の人びと(5)」	『広報みはま』：20	2013 年 7 月号	
5	河原典史	「雪崩に散った若い命：カナダ太平洋鉄道と美浜の人びと(6)」	『広報みはま』：21	2013 年 9 月号	
6	河原典史	「雪崩に散った若い命：カナダ太平洋鉄道と美浜の人びと(7)」	『広報みはま』：22	2013 年 12 月号	
7	河原典史	「雪崩に散った若い命：カナダ太平洋鉄道と美浜の人びと(8)」	『広報みはま』：23	2014 年 1 月号	
8	ウェルズ恵子	「語りえぬものの語り」小特集	報告書、立命館大学国際言語文化研究所『立命館言語文化研究』第25巻3号	2013 年 12 月	
9	ウェルズ恵子	いまにも生きる民話の力：「ウサギとカメ」インソップ、日本、アメリカ黒	立命館土曜講座、立命館大学衣笠キャンパス	2013 年 11 月	

		人版		
10	西成彦	「山椒大夫」から「耳なし芳一」へ	立命館土曜講座、立命館大学衣笠キャンパス	2013年11月
11	荒このみ	コヨーテの物語—先住民インディアンのユーモア—	立命館土曜講座、立命館大学衣笠キャンパス	2013年11月
12	山崎 遼	<翻訳>脳梗塞と歌—フォーク・シンガー達が、両方としての音楽を体験する—	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』25巻3号、PP.15-21	2014年2月
13	丸山里美	「女性の貧困と子どもの貧困」	東大阪市男女共同参画センター	2013年6月15日
14	丸山里美	「見えにくいおひとりさまの存在・生活～標準家族って何？」	とよなか男女共同参画センター	2014年2月16日
15	丸山里美	「女性ホームレスはなぜ少ないのか」	寝屋川市男女共同参画センター	2014年2月28日
16	丸山里美	『もやい生活相談データ分析報告書』	科研費報告書	2014年3月
17	池内靖子	「描く女／描かれる女—現在を生きる私たち自身の眼差しと戦争の記憶を問いなおす」	『図書新聞』	2013年4月6日
18	岡野八代	「少年支援におけるケアのありかた—ケアの倫理をグローバル社会へ」	長岡京市乙訓少年支援の会「ひまわり」	2013年12月15日
19	岡野八代	「ケアの倫理と生活指導実践」	静岡高校生活指導研究会	2014年2月9日
20	岡野八代	「働くことと、生きること」	高知大学	2014年2月10日
21	梁説	編集委員の一人として聞き取り、編集に参加	『東九条の語り部たち～14人の聞き取り報告～』	2013年7月
22	山下英愛	「韓国の女性家族部が選んだドラマ」	在日本大韓民国婦人会全国研修会	2013年6月
23	山下英愛	「韓国ドラマに見る女性と家族」	貝塚人権教育研究会夏季研修会	2013年8月
24	山下英愛	「ドラマが描くアジュンマ」	じんけん SCHOLA 専門講座	2013年10月
25	山下英愛	「韓国ドラマに描かれた差別と人権」	淡路市教育委員会	2013年12月
26	山下英愛	「韓国ドラマで日韓交流」	八尾市教育委員会	2013年12月
27	山下英愛	「韓国ドラマで学ぶ女性の生き方」	八王子市男女共同参画センター	2014年2月
28	高橋秀寿	国民国家が生んだ儀礼	毎日新聞	2013年10月18日
29	要真理子	<翻訳>美学か美か：自然と芸術における形式と意味（原著者：Jale Erzen）	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』25巻1号、PP.1-7	2013年10月
30	住田翔子	<翻訳>ロシアのコンテンポラリー・アートにおける風景のナショナル・コード(原著者：Ada Raev)	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』25巻1号、PP.17-31	2013年10月
31	田浦秀幸	バイリンガル脳を覗く：帰国生と国際結婚家庭の子供達を対象に	立命館大学国際言語文化研究所主催連続講座「バイリンガリズムをほりさげる」 2013.10.18. 立命館大学	2013年4月～9月
32	中川成美	「クイアリーディングが拓くもの—実践としての比較文学—」	日本比較文学学会大会ワークショップ、司会・ディスカッサント、名古屋大学	2013年6月15・16日
33	中川成美	「第75回大会を終えて」	日本比較文学学会『会報』、PP2-3	2013年9月
34	中川成美	“memory of disaster”	、Madeira University international conference、ディスカッサント	2013年10月19日
35	中川成美	「テキスト・ジェンダー・文体—日本文学が翻訳されるとき—」	第37回国文学資料館国際研究集会、司会・ディスカッサント	2013年12月1日
36	中川成美	「特集要旨—徹底討論「春は馬車の乗つて」を終えて」	『横光利一研究』第12号、pp1-2	2014年3月
37	Chie Ishida	“El concepto <i>Nikkeijin</i> : Otra historia, otra mirada desde Japón”	XVII Convención Panamericana Nikkei, Buenos Aires	2013年9月13日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	丸山里美	山川菊栄記念会	山川菊栄賞	『女性ホームレスとして生きる』	2013年12月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	西成彦	比較植民地文学研究の基盤整備	基盤研究 (C)	2012年4月	2015年3月	代表
2	田浦秀幸	表象・アルファベットバイリンガルの脳賦活様態のfNIRS研究	基盤研究 (B)	2013年4月	2017年3月	代表
3	田浦秀幸	日本人英語学習の英語賦活脳内メカニズム解明縦断・横断研究	挑戦的萌芽	2013年4月	2016年3月	代表
4	田浦秀幸	中国の大学での英語教員養成課程の現地縦断調査—日本への提言	基盤研究 (C)	2010年4月	2014年3月	分担
5	田浦秀幸	早期日英バイリンガルの14年間の縦断研究のナラティブ分析研究	基盤研究 (C)	2011年4月	2014年3月	分担
6	平田裕	形式別、筆記テスト時と会話時の脳活動の近似性の比較検証	挑戦的萌芽	2012年4月	2015年3月	代表
7	井上彰	デモクラシーの規範性に関する分析的考察	若手研究 (B)	2011年4月	2014年3月	代表
8	井上彰	震災復興政策における分配的正義	挑戦的萌芽	2013年4月	2015年3月	分担
9	河原典史	カナダにおける日系ガーディナーの歴史的展開と他民族との関係性をめぐる研究	基盤研究 (C) <継続>	2010年4月	2015年3月	代表
10	日比嘉高	戦前期における内地/外地を結ぶ書物流通の総合的研究	若手研究 (B) <継続>	2012年4月	2016年3月	代表
11	米山裕	環太平洋における在外日本人の移動と生業	基盤研究 (A) 一般	2013年4月	2018年3月	代表
12	佐藤量	満洲開拓者の引揚げ・再定住・生活再建をめぐる歴史社会学的研究	若手研究 (B)	2013年4月	2017年3月	代表
13	中川成美	海外紀行文の総合的研究—視覚的想像力の諸相をめぐって	基盤研究 (C)	2012年4月	2015年3月	代表
14	ウェルズ恵子	アフリカンアメリカン口頭文化の総合的研究	基盤研究 (C)	2010年4月	2014年3月	代表
15	佐藤渉	オーストラリア文学に見るグローバル化と文学	基盤研究 (C)	2011年4月	2014年3月	代表
16	丸山里美	「新しい貧困」のジェンダー分析	若手研究 (B)	2011年4月	2014年3月	代表
17	二宮周平	変貌する家事紛争に対応した解決モデルの構築	基盤研究 (A)	2011年4月	2014年3月	代表
18	姫岡とし子	近代ドイツのバックラッシュとナショナリズム	基盤研究 (C)	2011年4月	2014年3月	代表
19	岡野八代	ドーリア概念の精緻化による、非暴力と身体性に根ざした社会モデルの構築	基盤研究 (C)	2011年4月	2014年3月	代表
20	高橋秀寿	グローバリゼーションと植民地主義の観点からの主権と空間の歴史的分析	基盤研究 (C)	2013年4月	2016年3月	代表
21	仲間裕子	「認識」と「構築」の自然の風景像—21世紀の風景論	基盤研究 (B)	2010年4月	2014年3月	代表
22	要真理子	英国における児童美術教育の成立と自然観の変容	基盤研究 (C)	2012年4月	2015年3月	代表
23	田浦秀幸	縦断データによる日英バイリンガル言語習得メカニズム研究	基盤研究 (C)	2010年4月	2014年3月	分担
24	石田智恵	移民「二世」から見るナショナル리티の歴史と現在	研究活動スタート支援	2013年8月	2014年3月	代表
25	金友子	在日朝鮮人学生団体に見る「祖国」意識—1960～70年代を中心に	若手研究 (B)	2011年4月	2014年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	永田貴聖	フィリピン系のこどもたちの未来を切り拓くグローバルな教育支援モデルの構築	トヨタ財団 国際助成プログラム	2013年10月	2014年10月	企画分担者
2	田浦秀幸	日英バイリンガル園児のメタ言語発達段階解明研究：パイロットスタディー	2013年度後期立命館大学・研究の国際化推進プログラム	2013年10月	2014年3月	代表
3	Paul Dumouchel	Social justice and catastrophes	2013年度立命館大学・研究推進プログラム(科研費連動型)	2013年6月	2014年3月	代表
4	河原典史	カナダ契約移民をめぐる渡航後の転業と拡散的移動	2013年度立命館大学・研究推進プログラム(基盤研究)	2013年4月	2014年3月	代表
5	ウェルズ恵子	ヴァナキュラー文化におけるヴォイスの諸相	2013年度後期立命館大学・研究の国際化推進プログラム	2013年10月	2014年3月	代表
6	仲間裕子	アート・イン・トランスレーションー美術史・美学研究や視覚芸術研究の国際交流と国際発信	2013年度前期立命館大学・研究の国際化推進プログラム	2013年4月	2014年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国

以上。